

政策番号	1	政策分野	環境
------	---	------	----

基本方針	豊かな森林資源、伝統文化、進取の気性と創造の力など、京都のまちの特性をさらに高め、京都のまちがもつ「市民力」や「地域力」を総結集し、自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」の実現をめざす。
------	---

担当局	環境政策局	共管局	
-----	-------	-----	--

政策に関する主な分野別計画等	京（みやこ）の環境共生推進計画、京都市自動車環境対策計画（2011～2020）、京都市地球温暖化対策計画（2011-2020）、京都市エネルギー政策推進のための戦略京都市循環型社会推進基本計画（2009-2020）
----------------	---

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価	23年度評価値	32年度目標値	24年度	25年度	26年度評価				
					前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 温室効果ガス排出量削減率（1990年度比）（%）	11.4	25	b	e	2.8	-1.0	25	0.0%	e
2 エネルギー消費量削減率（2010年度比）（%）	7.1※	15	-	-	3.6※	7.1※	3	237%	b
3 本市が受け入れるごみ量（トン）	49.7万	39万	b	b	48.1万	47.2万	47.0万	99.6%	b
			b	d					c

※ 平成27年7月1日訂正

施策の客観指標評価		参照ページ	評価		
施策番号	施策名		24年度	25年度	26年度
0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全（2指標）	55	a	a	a
0102	低炭素型のくらしやまちづくりの実現（3指標）	57	a	a	a
0103	ごみを出さない循環型社会の構築（3指標）	59	a	a	a
	（3施策平均）		a	a	a

政策の客観指標総合評価	24年度	25年度	26年度
（政策の客観指標評価：施策の客観指標評価＝1：0.5）	—	—	b

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		24年度	25年度	26年度
1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	c	c	b
2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	b	b	b
3	省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。	b	b	b
4	太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。	c	c	c
5	京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。	c	c	c
6	マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。	a	a	a
7	ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。	a	a	a
	市民生活実感調査総合評価	b	b	b

2-2 政策の重要度（27政策における市民の重要度）

24年度		25年度		26年度	
順位	%	順位	%	順位	%
4	32.3%	3	91.1%	3	91.8%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
<p>【客観指標】●温室効果ガス排出量については、エネルギー消費量が着実に減少している一方で、火力発電の依存度の高まりに伴う電気の排出係数の悪化により、温室効果ガス総排出量が増加し、昨年度に引き続きe評価となった。</p> <p>●一方で、エネルギー消費量は、基準年度(平成2年度)以降で最も少なくなり、着実に減少していることからb評価となった。エネルギー消費量のうち、産業部門(工場等)及び運輸部門(自動車・鉄道)は着実に減少している。民生・家庭部門及び民生・業務部門(オフィス等)はしばらく横ばいであったが、東日本大震災以降は減少してきており、市民及び事業者の省エネや節電の取組成果が現れている。</p> <p>●本市が受け入れるごみ量のうち、家庭ごみの7割を占める紙ごみと生ごみの減量に関する啓発を積極的に進めるとともに、事業ごみ減量に関するニュースレター「ごみゆにけーしょん」の活用等による啓発・指導などを実施したことにより、本市のごみの受入量は着実に減少(△1.9%)し、目標値には届かなかったものの、3年連続b評価となり、安定している。</p>		25年度	C
<p>【市民の実感】●全体として昨年度と同様の評価となり、ごみ減量・再資源化の取組は、3年連続a評価と安定して高く評価されている一方、再生可能エネルギーの活用や環境にやさしいライフスタイルへの転換については、3年連続c評価が続いている。</p> <p>●省エネ・省資源や公共交通機関の利用、生活環境の保全については、3年連続b評価と安定している。</p> <p>●子どもたちの自然環境への意識については、こどもへのエコライフが継続的に浸透していることにより、c→b評価と、昨年度から改善した。</p>		24年度	B
<p>【総括】●客観指標については、温室効果ガス排出量は、外的要因が大きく影響することから、e評価となったが、エネルギー消費量は、市民及び事業者の節電、省エネ等の取組成果により、着実に減少し、また、ごみ量についても、着実に減少していることから、客観指標総合評価はb評価となった。</p> <p>●市民の実感は、これまでの取組が徐々に浸透していると考えられ、継続してb評価と肯定的な評価を得ている。</p> <p>●こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。</p>			

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価+市民生活実感評価)>

施策番号	施策名	総合評価			参照ページ
		24	25	26	
0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全	A	A	A	56
0102	低炭素型のくらしやまちづくりの実現	B	B	B	58
0103	ごみを出さない循環型社会の構築	A	A	A	60

<今後の方向性>

<p>●京都市生物多様性プラン(平成26年3月策定)に掲げる普及啓発の取組を推進するなど、京都の豊かな自然環境と生物多様性に支えられてきた暮らしや文化を守り、継承・発展させていくとともに、大気や水質等の環境調査、公害発生源に対する調査、指導を行い、生活環境の保全に取り組む。</p> <p>●エネルギー消費量が減少している一方で、温室効果ガス排出量は増加していることから、京都市エネルギー政策推進のための戦略(平成25年12月策定)に掲げる「原子力発電に依存しない持続可能なエネルギー社会」や京都市地球温暖化対策計画(平成26年3月改定)に掲げる「持続可能な低炭素社会」の実現に向け、徹底的な省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの飛躍的普及拡大を図るとともに、環境にやさしいライフスタイルへの転換に向け、地域ぐるみで取り組む。</p> <p>●みんなで目指そう!ごみ半減!循環のまち・京都プランに掲げる「ピーク時からのごみ半減」に向けて、更なるごみ減量の取組の推進が必要となっていることから、今後は、生ごみ減量や紙ごみ分別などのごみ減量施策を一層推進しつつ、プランの見直しやごみの発生抑制からリサイクルに至るごみ減量全般に関する新たな枠組みの条例化に取り組んでいく。</p> <p>●以上の取組を通じ、京都のまちがもつ市民力・地域力を結集し、京都議定書発祥の地として、「DO YOU KYOTO?(環境にいいことしていますか?)」を合言葉に、自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」を目指す。</p>
--

政策名	1	環境	
指標名	温室効果ガス排出量削減率〈1990年度比〉（％）		
担当部室	地球温暖化対策室	連絡先	
		2 2 2 - 4 5 5 5	
1 指標の説明			
京都市域からの温室効果ガス（二酸化炭素，メタン等）年間排出量の，1990（平成2）年度比における削減率			
2 指標の意味		3 算出方法・出典等	
自然環境を気遣う低炭素社会の実現に向けた進捗状況を示す指標		{1-対象年度排出量(万t)/1990年度排出量(万t)} × 100	
4 数値			
10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	11.4	25	京都市地球温暖化対策条例 京都市地球温暖化対策計画<2011-2020>
	前回数値	最新数値	推移
	23年度	24年度	
数値	2.8	-1.0	3.8ポイント減
			単年度目標値
			数値
			根拠
			達成度
			京都市地球温暖化対策計画<2011-2020>に掲げた平成32年度達成目標値
			0.0%
	全国順位	中長期目標	
		数値	目標年次
		40%	42年度
		0.0%	
		根拠	
		京都市地球温暖化対策条例	
	備考	算定に用いるデータの公表時期の関係から，24年度の値が最新となる。	
5 評価基準			6 基準説明
最新数値が a：25%以上 b：18.75%以上25%未満 c：12.5%以上18.75%未満 d：6.25%以上12.5%未満 e：6.25%未満			京都市地球温暖化対策条例及び京都市地球温暖化対策計画<2011-2020>に掲げた，平成32年度までの排出量25%減達成（削減率25%以上）をa評価とした。また，0%（平成2年度から全く削減できなかった場合）～25%を等分し，b～eの4段階評価とした。
7 評価結果			
	24	25	26
	b	e	e

指標名	エネルギー消費量削減率〈2010年度比〉（％）		
担当部室	地球温暖化対策室	連絡先	
		2 2 2 - 4 5 5 5	
1 指標の説明			
京都市域における年間総エネルギー消費量の，2010（平成22）年度比における削減率			
2 指標の意味		3 算出方法・出典等	
原子力発電に依存しない持続可能なエネルギー社会の実現に向けた進捗状況を示す指標		{1-対象年度消費量(TJ)/2010年度消費量(TJ)} × 100	
4 数値			
10年後の(平成32年度)目標値	平成26年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	7.1	15	京都市エネルギー政策推進のための戦略（平成25年12月）
	前回数値	最新数値	推移
	23年度	24年度	
数値	3.6	7.1	3.5ポイント増
			単年度目標値
			数値
			根拠
			達成度
			平成32年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値
			237%
	全国順位	中長期目標	
		数値	目標年次
		15%	32年度
		47%	
		根拠	
		京都市エネルギー政策推進のための戦略	
	備考	算定に用いるデータの公表時期の関係から，24年度値が最新となる。 ※ 平成27年7月1日 平成26年度評価値，前回数値及び最新数値を訂正	
5 評価基準			6 基準説明
最新数値が a：15%以上 b：(1.5×t) %以上1.5%未満 c：(0.75×t) %以上(1.5×t) %未満 d：0 %以上(0.75×t) %未満 e：0 %未満 ※ t = 基準年（2010年度）からの期間			平成32年度までの10年間で15%削減する目標であるため，単年度目標は，単純計算で単年で1.5%づつ削減すると考える。 ex) 4年目では6% (=1.5%×4) が目標値となる。 評価年度で，平成32年度目標を上回る場合を a，単年度目標以上である場合を b，単年度目標の半分以上の場合を c，半分未満の場合を d，基準年より削減されていない(0%未満)の場合を e とする。
7 評価結果			
	24	25	26
	-	-	b

政策名	1	環境	
指標名	本市が受け入れるごみ量（トン）		
担当部室	循環型社会推進部	連絡先	
		213-4930	
1 指標の説明			
本市が1年間に受け入れるごみの量			
2 指標の意味		3 算出方法・出典等	
循環型社会の構築に向けた進捗状況を示す指標		出典：事業担当課調べ	
4 数値			
10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	49.7万	39万	京都市循環型社会推進基本計画(2009-2020)
	前回数値	最新数値	推移
	24年度	25年度	
数値	48.1万	47.2万	0.9万トン減
	単年度目標値		達成度
	数値		根拠
	47.0万		平成32年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値
			99.6%
	全国順位	中長期目標	
		数値	目標年次
			達成度
数値			根拠
	備考		
5 評価基準		6 基準説明	7 評価結果
最新値-目標値が, a: 0トン以下 b: 0トン超~3.5万トン以下 c: 3.5万トン超~7.0万トン以下 d: 7.0万トン超~10.4万トン以下 e: 10.4万トン超		当年度の目標値(47.0万トン)を達成した場合をa,京都市循環型社会推進基本計画(2009-2020)の基準年度(平成20年度)のごみ量(57.4万トン)を超えた場合をeとし,b~dは等間隔(約3.5万トン間隔)で基準を設定	24
			25
			26
			b
			b
			b